

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和4年度農作物病害虫発生予察情報について

令和4年度農作物病害虫発生予報第14号を発表したので送付します。

令和4年度農作物病害虫発生予報第14号

令和5年2月1日
徳島県

I. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が17.4%、発病度が0.9)。
- (2) 高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないよう十分に換気を行う。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 低温時期は孢子を形成しやすく、感染源が多くなるので、発生を認めたら薬剤散布間隔を短くして、薬剤散布を行う。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が6.2%、発病葉率が0.5%)。
- (2) 高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 病斑は主に葉裏に形成されるので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (11月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が75.0%と、平年(53.9%)に比べてやや高く、寄生葉率は11.4%と、平年(3.7%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が8.6%、発病果率が0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.4%、発病

葉率が 0.0%)。

(2)高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病葉率が0.5%と、平年(44.8%, 4.9%)に比べてやや低い。
- (2)高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.3%、寄生葉率が0.1%)。
- (2)高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が49.8%、寄生葉率が4.7%、被害果率が0.7%)。
- (2)高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

1)予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「多」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が83.3%、寄生葉率が20.2%と、平年(49.5%, 4.4%)に

比べて高い。

(2)高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.5%、寄生葉率が0.3%)。
- (2)高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

冬春キュウリ

べと病

1)予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(35.6%)に比べてやや高いが、発病葉率は6.3%と、平年(5.4%)並の発生である。
- (2)高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2)肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
- (3)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬剤散布は、葉裏を重点的に行う。
- (4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、発病葉率が0.3%と、平年(44.4%、4.7%)に比べて低い。
- (2)高松地方气象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が36.7%、発病葉率が3.6%)。
- (2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 肥料切れや窒素過多などは発病を助長するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬剤散布は、葉裏を重点的に行う。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.3%、寄生葉率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が14.4%、寄生葉率が1.1%、被害果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.8%、寄生葉率が0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

春夏ニンジン

斑点細菌病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.0%、発病株率が0.0%)。

(2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 天候急変等により換気が遅れ、トンネル内の温湿度が急上昇すると蔓延しやすい。

冬レタス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が25.2%、発病株率が0.8%)。

(2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 過湿にならないようトンネル内の換気や圃場の排水に努める。特に収穫期には株元が繁茂して過湿になり、発生しやすくなるので注意する。

(2) 発病株は伝染源になるので、できるだけ早く除去する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

菌核病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が10.0%、発病株率が1.0%と、平年(49.2%、2.6%)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) トンネル内が過湿にならないように換気を図る。

(2) 発病株を放置しておく多数の菌核を形成して伝染源になるので、できるだけ早く処分する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ハウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が9.1%、発病度が0.5と、平年(3.3%、0.2)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。

(2) 平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。多発すると防除が困難になるので、初期防除

に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

(3)葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

(4)病原菌は被害株に付着したまま越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染する。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布して発生を防止する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が9.1%と、平年(30.0%)比べてやや低いが、1株当たり寄生虫数は0.0頭と、平年(0.1頭)並の発生である。

(2)高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.9%、発病果率が0.0%)。

(2)高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。

(2)発病果は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が5.1%、発病葉率が0.2%)。なお、発病果率は0.3%と、平年(0.0%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)古葉を早めに除去し、葉裏にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(3)罹病した果実や茎葉などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が15.4%と、平年(28.1%)に比べてやや低いが、寄生株率は6.8%と、平年(4.4%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が23.1%、寄生葉率が2.2%と、平年(66.7%、10.6%)に比べて低い。
- (2)高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)1月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が15.4%と、平年(7.1%)に比べてやや多いが、寄生花率は0.2%と、平年(0.2%)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が1月26日に発表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

II. その他

- 1.朝夕の冷え込みが厳しくなる時期なので、施設内の換気は、内部温度が急激に下がらないよう適切に行い、夕方は早めに閉め込む。また、暖房機の点検を励行し、作目に応じた適正な温度管理を行う。
- 2.薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。